

別府国際教会を訪問しました

1月13日(日)は別府国際教会の第2礼拝に出席させていただきました。礼拝前の教会学校は縦割りクラスで、留学生の証しを聴くプログラムでした。私はインドネシアから立命館アジア太平洋大学に入学したサム兄の証しを聴きました。イスラム圏から学びに来ている学生との出会いを通して、穏健なイスラム教徒は平和を求める人たちであることを知って、自分の視野が大きく広がったと話してくれました。

この日は午後には新年恒例のもちつき大会がありました。3月23日(土)に別府国際教会で結婚式を挙げる予定の菊岡琢真兄・遠藤真子姉が餅つきをした時には、スマホ片手にシャッターを切る人たちの列ができていました。私たちはこれからも地方連合に連なる諸教会の出来事に寄り添い続けます。



編集後記

1月20日(日)南小倉教会で「生笑一座公演」を開催しました。出演者を含む76名の参加、中央に舞台を確保したことで、会堂は満員御礼でした。出演者が一人ずつ登場して、元ホームレス時代のことを奥田知志座長との対談形式で語りました。新聞記事や折込チラシを見て駆けつけた方、水曜日はんや聖書講座でつながっている方など、礼拝ではお見かけすることのない方が幾人もおられました。谷本牧師は週報の巻頭言で「教会は共に生きるための、いのちを生かすための、いのちの言を分かち合う使命を負っている」と書いています。キリストの赦しこそが破れかけた世界をつなぐのです。(斉藤弘司)



次回予告

巻頭言 山崎克明連合会長(富野)

2月～3月の予定

- 2月11日(月)信教の自由を守る日集会 (シオン山)13時半
- 2月17日(日)おじゃまします遠賀川流域教会 (芦屋)14時半
- 2月23日(土)ハラメント研修会 (豊前)14時
- 2月25日(月)連合牧師会・カリス会 (小倉)11時
- センター運営委員会 (小倉)14時半
- 3月 4日(月)連合役員会 (シオン山)18時半
- 3月 9日(土)連合壮年会総会 (シオン山)13時
- 3月10日(日)センター提案教会会議 (シオン山)15時半
- 3月24日(日)少年少女春の修養会 (シオン山)～26日
- 3月27日(水)全国小羊会キャンプ (天城山荘)～29日

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP : <http://bapkitaq.jimdo.com>
パスワード : kitag2015



連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 32号



発行責任者：山田雄次
発行所：〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2019年2月11日



信徒研修会報告「はじめての説教」

連載 高齢者を喜ぶ教会になるために(3)

教会おじゃまします音楽版 ～直方教会～

別府国際教会を訪問しました

写真：光教会クリスマス愛さん会

(2018/12/23 光教会)



一緒に汗を流して～光キリスト教会ワーク

シオン山教会牧師 伊藤光雄(シオン山)

シオン山教会は2018年度から光キリスト教会と一緒に歩み始めています。具体的には毎月第一水曜日(10:30～11:30)に光キリスト教会で祈禱会を行い、

また年2回(今年度は7月、2月)主日礼拝の宣教者としてシオン山教会から牧師を派遣します。その中で祈禱会は、毎回シオン山教会から牧師と共に4～5名の信徒と参加し祈りを合わせることを通してお互いの教会のこと、また地方連合のこと等を分かち合い、少しずつ交わりが深められていますことを感じています。さらに光キリスト教会は今年度から地方連合諸教会による宣教支援(月一回)によって励ましを受け、感謝と喜びをもって歩んでいます。

しかしその恵みに応えて歩み出しているとき、祈禱会で「教会は、みな様の来会を心から歓迎します」という姿勢を表わすために教会の内外の整備をしましょうということになり、10月27日(土)に光キリスト教会から4名、シオン山教会から10名の参加で地方連合交流プログラム支援を利用して教会内外の整備を行いました。作業の途中で近隣の方からは「きれいになりますね」「人がいると作業も早いですね」等と声をかけてくださる中で教会の内外はさっぱりとなり、作業に携わった方々は、それぞれに喜びと感謝と達成感を体一杯に感じる一日となりました。そして後日、作業で出されたゴミを焼却場に搬入しましたが、その量がオートトラック(レンタカー)3台分にもなり、これもまた驚きと感謝でした。

ワークの一日、これからの光キリスト教会の歩みについて思いを合わせながら、みんなで一緒に体を動かし、汗を流しました。翌日の主の日、それぞれの教会で疲れを吹き飛ばす恵み溢れる礼拝をささげることができたと思います。

今年度から始まった光キリスト教会との交流によってお互いの顔と顔を合わせ、出会うことを通して天の窓が開かれ、今まで以上にシオン山教会の兄弟姉妹は積極的に光キリスト教会と共に歩む恵みを豊かにされています。これからさらに互いの労苦を担い、一教会では困難なことを互いに協力し合い、祈り合うことによって乗り越えられるという希望と確信をもって一歩一歩前に向かって歩みたいと思います。

信徒研修会報告「はじめての説教」

1月26日(土)シオン山教会を会場に、教会教育委員会主催の信徒研修会が行われました。テーマは「はじめての説教」。講師に姪浜教会の鈴木牧人牧師をお迎えし、信徒説教入門という位置づけでお話を伺いました。午後には、姪浜教会で信徒説教にチャレンジした大内絵美さんのお話も伺うことができました。当日は雪による通行止めで、残念ながら大分方面からの参加が叶いませんでした。それでも13教会から37名の参加がありました。

1)信徒説教とは何か

主日礼拝の宣教は、神学教育を受けた牧師・協力牧師等の教役者が担うのが一般的です。バプテスト教会では、信徒が教会総会や執事会の委託の下で、主日礼拝の宣教に当たることがあります。これを「信徒説教」と呼びます。証しとの違いは、出来事ではなく聖書のみ言葉から語るという点にあります。

2)信徒説教のメリット

たとえ信徒説教であっても、教会から立てられた器として語る必要があります。姪浜教会では、信徒説教に取り組んだことで、説教を聴く姿勢が大きく変えられたそうです。礼拝者として、共に礼拝をつくり上げていこうとする意識が高まった結果といえるでしょう。

3)信徒説教の準備の仕方

姪浜教会では準備シート①②をもとに、牧師と説教奉仕者との対話を重ねて、説教原稿の骨組みを組み立てていきます。一つのテーマをどの聖書箇所を用いて語るのか。「自分の中での感動や理解を大事にしてほしい。だから注解書は後で見るように助言している」と、鈴木牧師はおっしゃっていました。

語りたいことが明確になったら、私はみ言葉をどのように聴いたのか、具体的な証しや出来事をもとに整理していきます。そして6,000字程度の完全原稿を書き上げて、牧師からの助言を受けます。

姪浜教会では完全原稿が仕上がったら、水曜日の祈禱会で説教演習をするのだそうです。説教者は礼拝堂の講壇でみ言葉を語ります。聴き手は建設的な応答をすることで、伝わる言葉にするためのお手伝いをします。準備シート→原稿書き→説教演習→手直しのプロセスを踏むことによって、信徒説教が、教会の出来事になっていきます。

4)経験者のことば

大内さんは2年前に、初めての信徒説教にチャレンジしました。きっかけは鈴木牧師が鳥栖教会の特伝奉仕に呼ばれたことだったそうです。執事会の席で「どなたかお願いできませんか」という鈴木牧師からの呼びかけに応答したのが大内さんでした。

勤務が忙しいため、「私だから語ることでできる説教」を目指して、2か月前から準備を始めたそうです。準備シートをもとにした鈴木牧師との対話を通して、語りたい言葉が徐々に絞られていきました。説教演習では何を言われるのか不安だったそうですが、「一緒に説教を作り上げていくプロセスを体験することができて良かった」とおっしゃっていました。

参加者にお尋ねしたところ、10教会で信徒説教が行われていることが分かりました(防府、下関、富野、小倉、南小倉、シオン山、北九州、八幡、若松、芦屋)。また豊前教会でも準備を始めている方がおられるとのことでした。次回は信徒説教の実践を分かち合う研修会が持てればと思います。(当日配布資料が必要な方は教会教育委員長の本山牧師までご連絡ください)

連載 ご高齢の方を喜ぶ教会になるために(3)

連載の最終回は「いのちを喜び合うために私たちに今できること」です。

つづやきの背後にある気持ちを整理していく中で、「承認欲求」(私のことを認めてほしい)が満たされていないらしいという、一つの傾向が見えてきました。私たちに何ができるでしょうか。2018年1月21日のセンター運営委員会の話し合いで見えてきたこと。それは、教会に連なる人びとに向かって、教会が「あなたのことを忘れていません」というメッセージを発信し続けることでした。

東八幡教会では12月23日のクリスマス礼拝を100名以上で迎えるプロジェクトを立ち上げて、牧師そして教会員から、二重三重にお誘いハガキを送り合う活動を展開しました。その結果、131名でクリスマス礼拝をささげることができました。「ハガキを貰ってうれしかった」という声が多く聴かれました。大事にされている実感を持つことができたのだと思います。

誰かから必要とされることで人は元気になります。「私たちの教会ではこんなことに取り組んでみました」という事例がありましたら教えてください。(宣教支援センター主事 齊藤弘司)



第1回 教会おじゃまします音楽版 直方教会

教会音楽委員会では、第1回「教会おじゃまします音楽版」を2018年10月13日(土)14時から直方教会で行いました。直方教会のリクエストにより、クリスマスの讃美歌紹介、そしてハンドチャイムの体験レッスンを企画しました。出席は、6教会(高須、シオン山、飯塚、芦屋、若松、直方)から13名の参加でした。

初めに、クリスマスの会衆賛美として『新生讃美歌』から10曲を全員で賛美しました。歌詞の意味を考えて歌うことの大切さを再確認し、強弱をはっきりと付ける曲、輪唱して歌う曲などを取り混ぜての、充実した賛美練習の時間となりました。良い機会なので、平和集会に向けて「平和メドレー」の曲も、合わせて練習しました。

ハンドチャイムの体験レッスンでは、『新生讃美歌』から1曲、そして「上を向いて歩こう」の計2曲を、教会音楽委員が準備した楽譜を見ながら、初心者の方も一緒になって、和気あいあいと練習することができました。参加者からは「丁寧で分かりやすい説明や指導のもと、楽しい賛美のひと時でした」とのうれしい感想をいただきました。なお、今回の集会での合同練習を通して、遠賀川流域教会の今後の交流の広がりにつながるものとなれば幸いです。(南部栄子)

